

# 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月  
小松島市教育委員会

## 1. はじめに

令和3年5月27日、小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果概要について、小松島市の児童・生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の特徴的な傾向と今後の取組について次の通りまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

※「全国学力・学習状況調査」は、特定の教科の学力や教育活動の一側面について測定したものであります。本市では、本調査結果が学力全体を評価したものと捉えられ、学校間の序列化や過度な競争につながる恐れや、個人が特定される可能性があるため、学校ごとの数値結果（正答率や実数）の公表は行っておりません。

## 2. 調査概要

(1) 実施日 令和3年5月27日（木）

(2) 調査実施人数

小松島市 小学校 第6学年の児童 260 人

小松島市 中学校 第3学年の生徒 254 人

(3) 実施内容

① 教科に関する調査

小学校：国語 算数

中学校：国語 数学

② 質問紙調査

学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関することを問う

### 3. 調査結果

#### (1) 教科全般に係わる調査結果について

##### 【小学校】

国語	<p>○全体の正答率は、全国の正答率と同程度である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習指導要領の内容としては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均を上回っている。</li><li>・評価の観点としては、「知識・技能」が上回っている。「思考・判断・表現」は下回っている。</li><li>・問題形式については、「記述式」は、「選択式」「短答式」に比べて無回答率が高い。</li></ul>
算数	<p>○全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習指導要領の領域としては、「変化と関係」は全国平均と同程度である。「データの活用」などは下回っている。</li><li>・評価の観点としては、「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらも下回っている。</li><li>・問題形式としては、「記述式」の無回答率が高い。</li></ul>

##### 【中学校】

国語	<p>○全体の正答率は、全国の正答率と同程度である。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習指導要領の領域等では、「話すこと・聞くこと」は正答率が全国と同程度である。</li><li>・評価の観点としても、「話す・聞く能力」が全国正答率とほぼ同程度である。他は下回っている。</li><li>・問題形式としては、「短答式」では全国平均と比べると同程度である。「選択式」「記述式」は下回っている。</li></ul>
数学	<p>○全体の正答率は、全国の正答率をやや下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習指導要領の領域では、「数と式」は全国平均と比べて同程度の正答率である。「図形」「関数」「資料の活用」は下回っている。</li><li>・評価の観点としては、「数学的な技能」が全国平均を上回っている。</li><li>・問題形式としては、「選択式」「短答式」「記述式」のいずれも下回っている。</li></ul>

## (2) 各教科における特徴と改善策

### 【小学校】

国語	<p>漢字を正しく書くこと、文中の修飾と被修飾との関係を捉えることの正答率は、全国平均より高い。基礎的な学習の定着を、今後も継続していきたい。</p> <p>文章の構成を考えたり、文章を要約したりすることについては課題がある。文章を書く活動において、構成を色分けしたり、目的を明確化したうえでの文章を要約する学習活動を行ったりすることが考えられる。</p>
算数	<p>「速さ」や「面積」の式については正答率が高く、基礎的・基本的な知識や技能の定着が見られる。</p> <p>しかし、「データの活用」の領域において、統計的な問題解決の方法を用いた考察について課題がある。改善策としては、身近なもののデータを調べ、表やグラフに整理する活動や、作成した表やグラフを互いに読み取り合う活動も考えられる。また、データの特徴や傾向を捉え、結論をまとめたり、多面的に考察したりすることも大切にしたい。</p>

### 【中学校】

国語	<p>「話すこと・聞くこと」において、話し合いでの質問の意図を捉えることは正答率が高く、対話を取り入れた授業づくりの成果が表れていると考える。</p> <p>しかし、文章の構成の工夫や、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを「書くこと」に課題がある。自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書くとともに、書いた文章を互いに読み合う活動が考えられる。その際には、「構成の検討」「推敲」など当該学年で重点としている内容に着目して指導することが大切である。</p>
数学	<p>整式の加法・減法の計算や一次方程式の正答率は全国平均より高く、数学的な技能の定着が見られる。</p> <p>しかし、「図形」の領域において、条件を用いた図形の証明について課題がみられる。図形の性質を考察する場面については、観察や操作、実験などの体験的な活動が大切である。また、図形についての見方を深め、論理的に考察し表現する活動も取り入れたい。</p>

### (3) 生徒質問用紙の特徴

生活習慣や学習環境等に関する調査結果（一部抜粋）

※数値は「どちらかといえば」「時々」を含む割合を%で示したものである。

番号	質問事項	小学校		中学校	
		本市	全国	本市	全国
1	自分には、よいところがあると思いますか。	74.6	76.9	83.9	76.2
2	将来の夢や目標を持っていますか。	84.3	80.3	75.2	68.6
3	学校に行くのは楽しいと思いますか。	80.3	83.4	84.6	81.1
4	人が困っているときは、進んで助けていますか。	85.8	88.7	89.4	88.5
5	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	97.7	96.8	97.2	95.9
6	普段（月曜日から金曜日）、1日1時間以上勉強をしますか。（学習塾、家庭教師、インターネット活用含む）	53	62.7	83.5	75.9
7	普段（月曜日から金曜日）、1日30分以上読書を読みますか。	29.1	37.4	30.6	28.9
8	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	47.3	58.1	30.3	43.7
9	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。	48.4	52.4	53.9	44
10	昨年度までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器を1週間に1度以上は使用しましたか。	16.2	40.1	45.6	33.4
11	あなたは学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上は使用していますか。	15.8	39	18.1	34.8
12	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	96.5	95.5	96	96.5
13	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。	71.5	78.8	69.7	77.8
14	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか。	59.2	64.6	40.6	37.6
15	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。	58.8	63.1	50.8	48.4

#### (4) 考察

##### 1. 基本的な生活習慣、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等(質問事項1~5)

「自分にはよいところがある」の割合は、小学校では全国平均を少し下回り、中学校は上回っている。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」については、小学校も中学校も全国平均を上回っている。今後も、各学校の教育活動全体を通して、自尊感情や自己肯定感を高める取組、人権教育を核とした取組を続けていきたい。

##### 2. 学習習慣、学習環境等(質問事項6~7)

「学習時間を1日あたり1時間以上している」割合は、全国平均と比べて、小学校は下回り、中学校は上回っている。「30分以上本を読んでいる」割合も、小学校は比較的少なく、中学生は全国平均よりやや高い。今後も、家庭学習や読書の定着化を図る取組が必要である。

##### 3. 地域や社会に関わる活動の実施状況等(質問事項8~9)

「地域行事に参加している」割合が全国平均と比べて低い。しかし、「地域・社会をよくするために何をすべきかを考える」という項目では、中学校では全国平均を上回っている。例年、この項目については低い状況が続いているが、改善が見られる傾向にある。今後も地域との連携や社会教育活動など大きな枠組みでの取組を進めていきたい。

##### 4. ICTを活用した学習状況(質問事項10~11)

「ICT活用の授業」については、「1週間に1度程度以上」の回答で見た場合、中学校では全国平均を上回っているが、小学校は下回っている。今年度はタブレット端末が一人一台導入されたため、今後、ICT活用を充実させていきたい。

##### 5. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況(質問事項12~13)

「友達の話最後まで聞く」ことについては、全国平均と同程度で、ほとんどの児童生徒が肯定的な回答をしている。しかし、「話し合いを通じて、自分の考えを深めたり広げたりする」ことについては、回答率が下がり、全国平均からも下回っている。今後も対話的な学習を充実させる必要がある。

##### 6. 新型コロナウイルス感染症の影響(質問事項14~15)

昨年度の休校の間、計画的に学習を進めたり、規則正しい生活を送ったりすることについては、小学生は全国平均を下回り、中学生は上回る結果となっている。今後も変化し続ける社会での生活や学習のあり方について、目的を明確化して取組を行っていきたい。

#### 4. 今後の小松島市の取組

- 各学校で調査結果分析を行い,改善策の検討をし,授業改善に取り組む。
- 市主催で学力向上推進担当者研修会を開催し,市全体で学力向上に取り組む。
- 個人面談や各種便り等を通して家庭との連携を深め,基本的な生活習慣や家庭学習の充実に取り組む。
- 学校において言語活動の充実を図る中で,読書習慣の定着を図る。
- 地域と連携し,教育活動に必要な人的,物的資源の効果的活用に努める。
- 学校評議員会・学校運営協議会や学校評価から,各校の行事や教育課程の見直しと改善を図る。
- ICTを活用した授業研究を進めるとともに,ICT環境の充実を図る。
- 話し合い活動を意識的に取り入れた授業改善に取り組む。